

カトリック八尾教会ニュース 2023年8月



【今月の予定】

6日(日) **主の変容**

13日(日) **年間第19主日**

15日(火・祭) **聖母の被昇天**

20日(日) **年間第20主日**

27日(日) **年間第21主日**

ミサの時間

7:00
10:00
7:00
10:00
10:00
7:00
10:00
15:00
7:00
10:00

Tháng tám

《日本カトリック平和旬間:8/6~8/15》

※『**平和旬間のつどい**』

※『**合同追悼式**』



平日のミサ

木曜日のミサはお休み

お知らせ

※平和旬間のつどい

日時: 8月6日(日) 11:15~11:45
場所: 八尾教会 信徒ホール(1階)

~20世紀の戦争のかたりべ~

※合同追悼式について: 8月15日(火) ミサ後



合同追悼者名簿:

事前に亡くなられた方の名前を所定の用紙に記入して、追悼者名簿箱にお入れください。

献金は任意とし、封筒に入れず名簿と共に箱にお入れください。

合同追悼式はミサに引き続いて、聖堂にて行います。

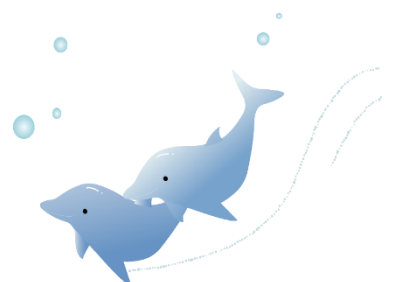
(典礼委員会)

お願い

(財務委員会)・平素より、教会の維持献金活動にご協力ありがとうございます。昨今、維持費や献金において、硬貨の金融機関への入金に手数料がかかるため、少額硬貨(特に一円や五円硬貨など)は出来るだけ避けて頂くようご協力をお願い致します。

(典礼委員会)・この6月より当教会のミサもコロナ禍前の体制へと取り戻しつつあります。

典礼奉仕(朗読、歌唱、祈願、伴奏など)をして下さる方を募集しています。典礼委員会までお申し出ください。



■ 小 教 区 評 議 会 が あ り ま し た 。 7 月 2 日 (日) 1 1 : 3 0 ~ 1 4 : 0 0

【報告事項】・・・略

（議事録全文は掲示板に掲示しています）

【協議事項】

1. 今後のミサのあり方についての反省と改善について

・グループ分けがなくなり、7時のミサでは約10名ほどの参加者があり、10時のミサでは90名(ベトナム語のミサのある時)～150名の参加状況となっている。受付にて、100名を超えるとホールの利用を案内してもらっているが、「聖書と典礼」や新ミサ曲プリントなどが不足しているので増やしてほしい。また、受付にも置いて欲しい。

・聖体拝領時にホールの人達が早く、上がってくるため、聖堂後方が混雑する。→先唱者より、拝領のタイミングを知らせるので、それまで、ホールで待機してもらおう。

・新しいミサの式次第の予備の部数が少なくなっているため、補充して欲しい。→売店で補充。

・新式次第、新ミサ曲プリント、使徒信条の冊子など複数冊使用するのが大変なので、一冊にまとめることができるか？→急ぎよ、準備したこともあり、何冊にも分かれているが、時を見て、典礼委員会で検討してみる。(子ども会用に作られたルビ付式次第はベトナムの方も利用されている。) また、多くの人に典礼奉仕に参加してもらおうよう、呼びかけていく。

・奉納時、侍者奉仕者の人数が少ない時は手間取る時があるが、典礼奉仕者にて臨機応変に対応して欲しい。また、侍者奉仕を子ども会リーダーから声掛けをしてもらっているが、時間間際に来る事が多いため、保護者の協力が必要。

2. 子ども会の勉強会について

・6月より、子ども会を第三土曜日の14時から神父様参加のもと、初聖体志願者とそれ以外の子ども達も参加し行っている。また、16時より中高生の集いも始めた。

・8月に教区の「青年と子どもの練成会」があるので、参加者を募っていきたい。

・先日のブロック侍者練習会が布施教会で行われ、ビデオに収録したので利用していきたい。

・8月は子ども会と子どものミサは夏休みとします。

3. 聖母被昇天について

・8/15(火)の10時にミサと合同追悼式を行う。合同追悼者名簿と献金については今年も行う。但し、献金は任意とし、追悼者名簿と同じ専用の箱に入れてもらう。

4. 平和旬間について

・今年度の教区の平和旬間のテーマは「希望を持ってともに歩む Let's hope and walk together

～あきらめずに目を覚まして Stay awake, never give up～

「ともに」対話すること、とりわけ外国籍の方、戦争体験者の方の話聞くことが大切とされているため、小教区の取り組みとして、ベトナムの方の戦争体験や日本の原爆体験の話聞けないか検討してみる。具体的な日程や方法が決まれば、評議会ラインを使って、連絡を回してほしい。

5. かわちブロックの今後の活動について

・時間の関係で提案や要望があれば、スタッフや評議会ラインに連絡してください。

6. 今年度の行事について(バザー開催について)

・前回の評議会でもバザーについて評議員のアンケートを取ることにし、その結果、今までとは違う形で行ってはどうかという意見が多かった。(アンケート結果、別紙)

・アンケート結果にともない、行事委員会として、

「2023年11月12日(日) 八尾教会ミニバザー」を提案(11:30～13:00)

・主目的は「教会を共同体(居場所)として感じる」

- ・手上げ方式（店主あり：8/20～9月末までのエントリー：次回評議会にて審査あり）
 - ・食券は検討。→協議の結果、食券は無しで現金のみ。保健所への「臨時出店届出」は出す。
 - ・コロナウイルス感染症状況によっては、調理品は10月末までに中止の可能性あり。
 - ・調理品はキッチンカー形式。ペットボトルのお茶とジュースの出店募集。出来上がったものを購入販売募集。テント設営は野外調理をする場合は必須で各店主が呼びかける。ゴミは各店主が責任をもって持ち帰る。前日午後もしくは、当日朝の設営とする。出来上がったものを行事委員会として購入販売はエントリー状況により検討。
 - ・物品はフリーマーケット方式。（物品を出す方でいくつかのグループを作る。）
 - ・外部からの出店も可。（野菜のさくらんぼさん、作業所のパン屋さん、典禮品のピエタなど）
 - ・ダンスや音楽披露などは申し出があれば検討する。企画としては提案しない。
 - ・ホールの大型テレビをつかった上映を行事委員会にて検討。
 - ・ミニバザーのため、抽選会や広く募るバザー品の提供、物品販売は見送り。
 - ・駐車場は外部業者、団体、神父様のスペースとする。
 - ・収益は「青少年活動費(検討)」として納める。
 - ・次回評議会（10/1）で開催規模、具体的開催案を提示し、出店、開催の是非を評議予定。
- 以上の提案内容が評議会で承認された。

7. その他

（財務委員会より）・シュレッターが故障したため、個人情報や会計管理上必要なため、新規購入したい。
 （→承認）・献金などで大量の小銭（特に1円や5円硬貨）が集金されると金融機関へ入金する際、手数料がかかるため、困っている。出来るだけ、小銭（1円や5円硬貨）をひかえて頂くようお願いしたい。
 以上

*からし種：『聖母被昇天』とは？



マリアが靈魂も肉体もともに天に上げられたという教義で、1950年11月1日に、教皇ピオ十二世（在位1939～1958）が全世界に向かって、処女聖マリアの被昇天の教義を莊嚴に公布しました。・・・略。これは「おめでとう、恵まれたかた」（ルカ1・28）と神の使いからのあいさつを受け、神がともにおられるという恵みに満ちたものであるが故に、その生涯においてキリストと最も深く結ばれ、死後においてもキリストの復活と栄光にあずかっていることを意味します。つまりマリアは復活の恵みを受け、キリストを通しての神における人間の完成に到達したことを確信をもって宣言しているのです。聖母の被昇天への信仰は、マリアだけが特別な存在だと言い表すではありません。キリストによる救いにあずかる人たちの象徴として、信じるすべての人たちの救いへの希望を表現するものです。ミサの集會祈願はこのことを教えます。「全能永遠の神よ、あなたは、御ひとり子の母、汚れないおとめマリアを、からだも魂も、ともに天の栄光に上げられました。信じる民がいつも天の国を求め、聖母とともに永遠の喜びに入るることができますように」。（中央協議会ホームページより）

2003年2月に大邱 (テグ、韓国の南部都市、私の故郷) で悲惨な事があった。地下鉄に乗り込んだある人による放火で192人が死亡、怪我人が151人発生したのだ。中央駅という中心街の駅に近づいた電車内で、ある男がペットボトルからガソリンを振りまいて車内で放火したのだ。犯人は中央駅で車両から脱出、その後、火が付いている車両の隣、対向線路に他の電車が、まだ状況を正確に把握できなかったコントロールセンターの指示により駅内に入ってしまった、その電車の車掌は電車の扉を止めたまま、扉を開閉する鍵を持って逃げた。あろうことか、この車両からもっと多い死者が出たのだ。事故対応のへたくそさに、係員達の責任感の脱落による、前代未聞の地下鉄惨事になったのだ。この日、病氣だった私は車でソウルから大邱に着いていた。そして、煙が少し出ている、中央駅の真上を何も分からずに立っていたのだ。その辺は正に大邱の中心街、多くの人々が集まる場所で、待ち合わせも大変多く、大邱市民ならお馴染みの場所だ。久しぶりに大邱に帰ってきた私もそれ故、あそこにいたわけだ。地下でどんな事が起こっているか全く分からずに。バスで30分距離の実家に行って、テレビニュースで事故の報道を見た時の驚きとは！この悲劇以来、出きる限り地下鉄に乗らないことにしていた。

大阪は、故郷の大邱と漢字が一つ共通しているの、それも親しみを感じる理由の一つだ。

主に利用するのは環状線、ゆっくりと流れていく風景に目をやりながらぼっとするのが大好きで、何より地下ではなく、地上にいることが安心感を与えていたためだった。地下鉄は乗らないと無意識がまだ働いていた時はそうだった。しかし、それはトラウマ程のものではなかったようで、いつの間にか、大阪内で地下鉄に乗る楽しみに気づき、今は電車に乗るとなると地下鉄を利用して、中央線、長堀鶴見緑地線、谷町線、御堂筋線などで市内の用事がすんわり済める。地下に潜って電車に乗り、目的地の駅で下車して地上に上がって来る。この行為、つまり、下がってまた上がって来ることに何かの意味を見出しているかもしれないとふとこの文章を書きながら気づき始めた。イエス様の復活に似たものがあるではないか！地下は死の空間、地上は反対に命の空間で、死から命へという復活のメカニズムを、地下鉄に乗る度に無意識にも経験していたかもしれない。20年前、あの悲惨極まりない事故現場の上に無邪気にも立っていた自分、筆舌では表現できない苦しみで亡くなられた多くの犠牲者と今も怪我の後遺症や精神的トラウマに苛まれている人々のご遺族の心境に少しは寄り添う気持ちで、私も色々な試練を乗り越えて来たかもしれない。そうだ。人間が人間らしくなり得るのは、シンパシーが出きるからだ。人の苦しみにより自分もいたたまれなくなる。そのシンパシーのマスターイエス様！イエス様による病者の治癒は、このシンパシーが必ず現れるのだ。

亡くなった父。彼のことを思うとシンパシーを感じる。彼の復活を切に待ち望む。地上で出来なかったその復活を。これからイエス様と共にいながら天国で幸せに、父さん！私にとって時間は父の生前と没後とに分かれている。2003年、父はまだ元気だった。

(*シンパシー：同情、他者の苦境に対し共感する感情の同一性。)

